

剣道普及のカタチ

少子化の影響もあり、剣道人口の減少が叫ばれている。とくにここ数年で危機的状況にある地域、廃部になった学校も次々増えている。剣道をする人を増やすためにはどうすればいいのか。そのヒントをシリーズとして紹介していく企画。今回は、中学校に入ってから剣道を始めた人限定のイベントにスポットを当てる。その目的等について、主催者に聞いた。

工夫を散りばめた、 初心者のための大会

たまご杯・ひよこ杯・にわとり杯大会（相模原市）

令和6年2月23日（祝）、相模原市の中学校剣道部が旭中学校に集まり、ある大会が実施された。題して「たまご杯・ひよこ杯・にわとり杯剣道大会」。中学校から剣道を始めた部員だけが参加する大会である。「たまご杯・ひよこ杯・にわとり杯」という名称は実にユニークといえる。1年生を「たまご」、2年生を「ひよこ」と設定し、各部門で上位に進んだ選手による対抗試合をエキシビジョンマッチとして「にわとり」と題し、実施した。

大会は1・2年生が参加する男女別の個人戦。基本的なルールは他大会のそれとほぼ変わらないが、ひとつあえて強調していることは、「応援」について。「拍手のみ」ではなく、「いいところがあったらどんどん声をかけて応援し、盛り上げてほしい。そういう大会にしたいと思っています」とリクエストがあった。

あいさつの中で神奈川県剣道連盟副会長を務める野見山延氏（教士八段）は、「このなかから世界大会に出場する選手が出てほしいと思います。まずは皆さんに剣道を楽しんでほしい。今日はそんな1日にしてください」と語っていたが、これこそが主催者の狙いといえる。コロナ禍になる前にこの取り組みは一度だけ試験的に実施されたそうだが軌道に乗る前に中断。昨年、久々にこの大会が復活。前年に続き実施された。相模原市の中体連剣道部は、初心者のための大会を開きたいという思いを長年持ち続けていたという。幼少時から剣道をしている部員と初心者とは力の差があるため、初心者の部員は試合に出るチャンスが低い。そんな生徒にチャンスを与えたい、という願いを持っていた。そして、田名中学校教員を務める藤林修平氏は、「レギュラーで試合に出ている部員は、彼らのサポートがあるから試合に出られる。その感謝を、この日は逆に彼らをサポートすることで示してほしい」



試合前、1時間ほど稽古の時間が設けられ、旭中学校体育館は剣道部員でいっぱい



全国教職員大会個人優勝等、数々の実績をもつ藤林修平氏(田名中学校教員)もあらゆる層に、剣道の楽しさを経験してほしいと願う。自身の学校も未経験者が半数はいるそうだ



神奈川県剣道連盟の野見山副会長も会場に駆けつけた。「若手が活発に活動ができていいる」と相模原市の取り組みに注目している



あらかじめ参加人数を把握したうえでトーナメント表だけを先に作成。先着順で出場選手が直接空欄に名前を書き込んでいく



個人戦のトーナメント戦で上位に進んだ選手による対抗試合を「にわとり杯」と称して実施。監督には剣道未経験の顧問が務め、試合前には円陣を組んで盛り上がる



地元の武道具店(真剣堂)が竹刀を提供。多くの選手が景品を受け取っていた



スタッフによる打ち合わせ。中学校から剣道を始めて剣道のおもしろさを知り、大学では体育会剣道部に入って、現在中学校の教員を務めている人もいる。剣道未経験者でも運営に参加しやすい雰囲気づくりを心がけている

と語っていた。自身も中学時代から試合に出ていたが、自分が試合に出ることによって試合に出られない選手が生まれることも事実。1年次から試合に出れば、3年生がチャンスを失い、そのまま卒業となることもある。そんな人たちの忸怩たる思いを感じ取っていたという。

相模原市では、中学校の部員は比較的減少率は少ないそうだ。ある中学校は、1・2年だけで30人もの部員を有し、それもひとつの学校にだけ部員が固まることなく、比較的各学校に分散している。「先生方のご尽力が大きい。熱心に部活動に取り組んでいて、剣道を勧めている先生が多いおかげです」(藤林氏)。ちなみに、市内中学校における剣道の初心者はいずれの半数ほどではないかと藤林氏。なかには、部員の大半が剣道未経験者というところもある。

部活動の顧問は剣道未経験者も半数以上という。剣道経験のない人が剣道のイベントに来ることは、剣道をしている人より負担を感じてもおかしくない。それを還元するのは、部員の活気ある姿を見られること。このイベントはあえて活気ある応援を取り入れることで、部員も(教員も)生き生きとし



決勝戦は、試合場をほかの部員が取り囲んで行なわれた

た姿を見せ、「楽しい空間」を共有しようという意図が見えた。これは、その後のモチベーション向上にもなるはずだ。自分の中学校に戻って部活動に携わるときにもまた新たな思いで関われるであろう。最後に行なわれたエキシビションマッチでも未経験者の顧問を監督にし、監督席に座ってもらった。

強くなるための錬成会は当然必要だが、とかくスポットが当たるのは、経験の浅い人ではなく強い選手になる。相模原市では「寒中大会」という団体戦が

1月に実施されている。回数を重ねるごとに近隣の強豪校が参加。県内にとどまらず、関東全県、さらには山梨県からも参加があり、さながら「関東大会」の様相になっているという。となると、市内の学校が序盤で敗れてしまい試合数を重ねられなくなる可能性も高くなる。それを補う意味合いも、今回の「たまご杯」にはあったようだ。

同市でこの後に計画されているのが、「仮入部サミット」と題したもの。部活動紹介の際のプレゼンテーションの方法を募り、情報交換をしようというものである。さらには、今回の大会の様様を収録したDVDも作成する。「初心者でもこんなに楽しめる大会がある」という姿を、新入生への部活動紹介時に見せることで入部のきっかけづくりにしたい意向だ。

初心者だけの大会は、神奈川県内では相模原市独自の取り組みだという。ひとつのモデルケースとしてこれが定着し、他の自治体にも広まっていけば、中学校の段階で剣道を始めるきっかけになるかもしれない。

ただ、高校へ進学すると剣道から離れる人が多いのが現在の課題。それについての対策も検討中だという。